

小児・AYA世代のがん経験者の思い

小児 AYA 世代（15 歳～30 歳代）にがんを経験した方の交流会を行いました。

◆がんと分かった時の苦労

- ネットにも詳細な情報が少なく、どうしたらいいか悩んだ。
- 同年代の患者は少なく、がん種毎のサロンもなくて、話をする場がなかった。

◆人と繋がれる心強さ

- ブログで自身の状況を発信し、患者同士で繋がっていた。
- 同じような治療をしている人と話をできることが、心強かった。
- 友人にも話しづらいことでも、患者・サバイバー同士だからこそ話せる場合もある。

◆AYA 世代に必要な支援

- がん治療が始まる前に、妊孕性温存*に関する情報が欲しい。
- 治療中の子どもの預け先を探すのが大変だった。
- 患者が活用できる社会制度（障害年金など）を一括して案内してくれる場が欲しい。
- がんになっても仕事を続けられる社会環境の整備や周囲の人の理解が必要。

◆がん経験者としてのメッセージ

- 人に話すことで、気持ちの整理ができることもある。
- 自分 1 人で辛さを抱え込まないで。
- 同じ境遇の人と経験を共有することで、励まし合える。
- 日常の中にちょっとした楽しみを見つけて、過ごしていくことが大切。

※妊孕性（妊娠するための力）を温存するため、卵子や精子を凍結保存すること。

栃木県では、今後も交流会の開催を予定しています。

同世代の経験者と話してみたい、悩みや気持ちを共有できたら・・・という方は、ぜひ御参加ください。



【お問い合わせ先】

栃木県保健福祉部健康増進課

TEL：028-623-3096